



ぶらり島旅

鬼にも出会える!?
アートな島めぐり

burari
shimatabi

OGIJIMA

MEGIJIMA

アート作品も楽しめる女木島、男木島。離島に賑わいを取り戻したい、という想いを背景で開催された瀬戸内国際芸術祭は、香川県をはじめ各市町、島の住民など多くの人の尽力によって支えられている。写真は、鷲ヶ峰展望台（女木島）からの眺望。手前に行く船はフェリー「めおん」。

男木島 女木島

香川県高松市



高松港から女木島・男木島を結ぶ
フェリー「めおん」

穏やかな空気や独自の文化と歴史、豊かな自然が人を優しく包み込んでくれる。島旅の魅力は、何と言っても「非日常感」ではないだろうか。瀬戸内海に浮かぶ数ある島々の中で、今回訪れたのは、高松港から沖合約4kmの「女木島」とその北隣の「男木島」。日帰りで楽しめるふたつの島で、瀬戸内の島散歩を楽しんでみよう。

女木島

高松港から、しましま模様が愛らしいフェリー「めおん」に乗り込む。女木島までの航海は約二十分。高松の街の賑わいからは想像できないような静かな島に上陸した。

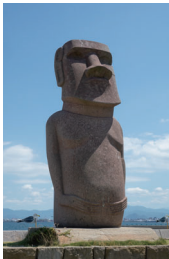
女木港へ着いたら、まず「おにの館」へ。「鬼ヶ島」の愛称で親しまれている女木島では、その名の通り、島のあちこちで愛嬌たっぷりの鬼たちが出迎えてくれる。船の待合所を兼ねた観光案内所「おにの館」は、食堂、フェリー待合室、資料展示室の「鬼の間」の、三つのゾーンで構成されており、日本各地の鬼伝説の資料、祭事に使う鬼のお面や女木島に関する資料などが展示されている。

女木港周辺では、瀬戸内国際芸術祭のアート作品や、鬼の灯台、モアイ像などに会える。防潮堤にずらりと並ぶカモメのオブジェは、木村崇人氏の作品「カモメの駐車場」。風が吹くたび、全員揃って向きを変える可愛い姿は見ているだけで癒される。なぜここに？と不思議なモアイ像は、高松市に本社を置くクレンメーカークの株式会社タダノが、イースター島の倒れたモアイ像の修復プロジェクトに際し、吊り起こし作業の検証に使用した模刻像だそう。高松市に寄贈され、ここ女木島に設置されたという。

島の山頂付近にある「鬼ヶ島大洞窟」へは、港から出ているバスでの移動が便利だ。「鬼ヶ島大洞窟」は、女木島が「鬼ヶ島」と呼ばれる由来となった場所。奥行き約四百mの洞窟内には鬼が並び、大広間や鬼の番人の控室などが再現されている。

女木島一の観光スポットであるこの洞窟は、一九一四（大正三）年に高松の小学校教員橋本仙太郎氏によって発見されたもので、桃太郎伝説と紐付けて世に発表され、昭和六年に一般公開された。当時は桃太郎の鬼ヶ島のモデルになった島として有名になり、一大観光ブームが巻き起こったそう。昭和三十五年頃までは毎日五千人が訪れ、港から長い行列ができていたという逸話も残る。ちなみにこの巨大洞窟は手掘りの跡があり、自然にできたものではない。作られたのは約二〇〇〇年前と推察され、当地の「鬼」とは、洞窟をアジトにした海賊だという説もある。しかし、発見から百年以上経った今でも、この洞窟をいつ誰が何のために作ったのか謎に包まれたままである。

古代の歴史ロマンに思いを巡らせつつ、鬼ヶ島大洞窟から歩いて十分ほどのところにある鷲ヶ峰展望台へ。標高一八八mの山頂から瀬戸内海を一望できる絶景



モアイ像



鬼の石像



木村崇人「カモメの駐車場」



鷲ヶ峰展望台「20世紀の回想」



おにの館

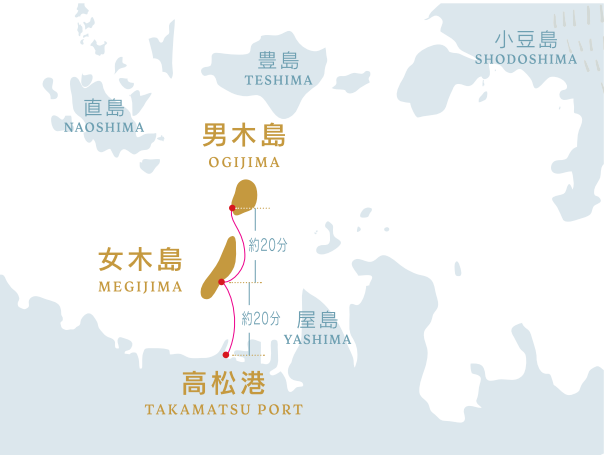


鬼ヶ島大洞窟

フェリー「めおん」のダイヤ

高松発 → 女木島着 / 発 → 男木島着			男木島発 → 女木島着 / 発 → 高松着		
08:00	08:20	08:40	07:00	07:20	07:40
10:00	10:20	10:40	09:00	09:20	09:40
12:00	12:20	12:40	11:00	11:20	11:40
14:00	14:20	14:40	13:00	13:20	13:40
16:00	16:20	16:40	15:00	15:20	15:40
18:10	18:30	18:50	17:00	17:20	17:40

*シーズンによってダイヤが変更される場合があります。



高松港までの交通 ——— 高松中央 IC から… 約20分
【 自動車で 】 高知 IC から…………… 高知自動車道・高松自動車道経由…約1時間40分
松山 IC から…………… 松山自動車道・高松自動車道経由…約2時間
徳島 IC から…………… 徳島自動車道・高松自動車道経由…約1時間



ちーむおぎ TEAM男気「タコツボル」



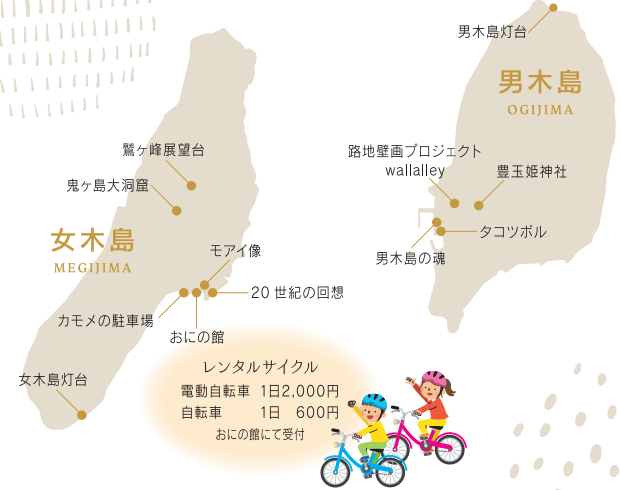
まかべりくじ 眞壁陸二
「男木島 路地壁画プロジェクト wallalley」



やまぐちけいすけ 山口啓介「歩く方舟」



ジャウメ・プレンサ「男木島の魂」



スポット。瀬戸内海を中心に立っているかの
ような大パノラマは必見だ。「鬼ヶ島大洞
窟」とセットでぜひ訪れてみてほしい。

男木島

女木港から再び「めおん」に乗り、男
木島に渡る。島に上陸するとまず目に飛
び込んでくるのが、スペインの現代芸術家
ジャウメ・プレンサ氏の作品「男木島の魂」。
貝殻をイメージした白い屋根に八つの言語
の文字がデザインされた目を引くビジュア
ルだ。フェリー待合所でもある「男木交流
館」として、島のシンボルとなっている。
男木島の地形は狭い坂道に石畳や石段

が続いていて、まるで迷路のようだ。そん
な道々にある廃材などに風景のシルエツト
を描き、民家の外壁に設置した眞壁陸二
氏の作品「男木島 路地壁画プロジェクト
wallalley」は、カラフルなペイン
ティングが不思議と島の景観に溶け込む。
こうしたアート作品を見つけるのも男木島
での楽しみのひとつだろう。

男木港から十五分ほど、参道の石段を
上ると、島の人から「玉姫さん」と呼ば
れ親しまれている「豊玉姫神社」へ到着
する。境内からは海を一望でき、島一番
のビュースポットといわれている。

男木島は周囲約四・七kmの小さな島。
島内の交通手段は徒歩か自転車のみで、
バスや車はない。三年に一度開催される瀬
戸内国際芸術祭の期間を中心に、夏休み
や行楽シーズンは観光客で賑わうが、普
段はのんびりとした空気に包まれる。

瀬戸内海には、七百を超える島が浮か
ぶ。その景観は眺めているだけでも十分楽
しめるが、実際に島々を訪れて歩けば歩
くほど、新しい風景に会える喜びがあるだ
ろう。旅人にとっては、高松から海を隔て
てわずか数十分の距離。そこには瀬戸内
ならではの穏やかな時間の流れがあった。
移ろいゆく瀬戸内海の風景に溶け込み、
ただ過ぎゆく時を愉しむ島旅もまた、心
に深い安らぎをもたらす。日常の喧騒から
解放され、自然と向き合うことで、私た
ちは新たな気づきを得ることができるかも
しれない。

